

IAUD Newsletter vol.9 第5号(2016年8月号)

1. 手話用語 SWG 防災体験学習施設「そなエリア東京」見学報告…………… 1
2. ノルウェー・オスロ Innovation for All 2016 参加報告…………… 4
3. 第7回 UD 検定・中級及び第13回 UD 検定・初級実施のご案内…………… 6
4. 第11回 48時間デザインマラソン ワークショップ in 東京参加者募集のご案内…………… 6
5. IAUD アワード 2016 募集中のご案内…………… 7
6. 第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋開催のご案内…………… 8
7. IAUD 8月の予定…………… 8

災害疑似体験をしながらグローバルボディランゲージ案を検証

活動報告:手話用語 SWG 防災体験学習施設「そなエリア東京」見学

外国人や高齢者、身体障害者が災害避難時でもわかりやすいグローバルボディランゲージを提案する活動に取り組んでいる手話用語サブワーキンググループは、6月24日(金)に東京臨海広域防災公園(東京・有明)にある防災体験学習施設「そなエリア東京」を見学しました。

当日は同SWGのメンバー4人が参加し、災害の疑似体験をしながらグローバルボディランゲージ案の有効性や課題を検証しました。

今号のNewsletterでは、当日の様子を同SWGメンバーの仁宮浩氏が報告します。



見学した防災体験学習施設「そなエリア東京」

外国人や高齢者、身体障害者が確実に避難できるために

手話用語SWGは2014年より、災害時に外国人や高齢者、および身体障害者が抱える2つの問題点「日本語が通じにくいハンディキャップ」「周囲の音が大きく騒がしい環境下で音声コミュニケーションが困難」に対し、確実に避難できるよう視覚的にわかりやすいグローバルボディランゲージを提案する活動を開始しました。

2014年11月に「第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2014 in 福島&東京」内で開催した「東京ワークショップ」では、「グローバルボディランゲージ」をテーマに、聴覚障害者や外国人留学生を交えてフィールドワークとディスカッションを実施しました。

その結果、グローバルボディランゲージの「有効性」「伝えることの重要なポイント」「気づき」を確認することができました。そして、これを元に避難や誘導を促す重要なキーワードを抽出し、「津波」「火事」「地震」それぞれのグローバルボディランゲージ案を作成しました。

続いて、2015年10月には筑波技術大学天久保キャンパス(茨城県つくば市)でワークショップを実施し、グローバルボディランゲージ案に対する評価を実施しました。

その結果、参加者にはグローバルボディランゲージ案に対する重要性を感じていただけただけのもの、改善に向けて「特に学ばなくても簡単に表現できること」「まずはその場を避難することを伝えてから状況説明、という二段構成(二発芸)がよい」等のコメントをいただきました。

また、各グローバルボディランゲージ案の評価用の動画に対しては、「実際の状況がわかりにくい」「地震が起きている間にボディランゲージができるのか」など、実際に使用できるかを問うコメントもいただきました。

ワークショップ後、これらの意見を参考にもう一度グローバルボディランゲージ案を見直しました。

そして、音響・照明・映像のジオラマが用意されている防災体験学習施設「そなエリア東京」で、災害の擬似体験をしながら見直した案の有効性や課題を検証し、次の評価に活かしたいと考えました。

生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習ツアー

「そなエリア東京」のある「東京臨海広域防災公園」は、首都圏で大規模な地震災害が発生した際に、国の緊急災害現地対策本部が設置されます。

大規模地震では、組織的な救助活動が開始されるまでの目安となる「地震発生から72時間」をどう生き残るかがポイントです。

「そなエリア東京」で実施している「東京直下72h TOUR」は、マグニチュード7.3、最大震度7の首都直下地震の発生から避難までを体験し、タブレット端末を使ったクイズに答えながら生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習ツアーです。

また、映像ホールや防災ギャラリーなどを通じて防災についても学ぶことができ、子どもから大人まで楽しめる施設となっています。



ツアーで使用するタブレット端末



再現被災市街地エリア

1階のエントランスホールで「東京直下72h TOUR」を申し込むと、スタッフからタブレット端末を受け取ります。

エレベーター前まで行き、そこでスタッフの説明を聞きながらタブレット端末を使ったクイズで注意事項を確認します。

エレベーター内で大規模地震に見舞われ、誘導灯を頼りに暗くて狭い通路を抜け、被災した市街地エリアへ移動します。ここでもタブレット端末を使ったクイズで注意事項を確認しながら、被災した市街地を抜けるように進むと避難場所に着きます。

避難場所には防災グッズやテントなどの展示があり、緊急時をどう生き抜くかのヒントを学ぶことができます。

ツアーはここまでで、スタッフにタブレット端末を返します。所要時間は約30分で、首都直下型地震の発生から避難までの一連の流れを体験できるようになっています。

災害の擬似体験を通して得た新たな気づき

体験ツアーや学習コーナーに参加し、グローバルボディランゲージ案について以下のような新たな気づきや学びを得ることができました。

①真っ暗な状態では使えない

エレベーター内で地震が発生して緊急停止するシーンがありました。エレベーター内で電灯

が消えて暗闇になったとき、周囲の音が入らず、手話によるコミュニケーションも難しい状態で不安な気持ちになりながら、誘導灯を頼りに駆け足で避難しました。

暗闇の中でもグローバルボディランゲージを使えるために、周囲を照らせる懐中電灯が必要と感じました。

②大きなジェスチャーが必要

エレベーターでの地震体験を通して、揺れている状態で移動するのは難しく、その場を動かなくても遠くから分かるように大きなボディランゲージで伝えることが必要と感じました。

また、地震を知らない外国人に伏せることを伝えるため、離れていても「伏せて！」が伝わるように大きくジェスチャーするの必要を感じました。

③地震のあとは津波に警戒して避難誘導を

地震発生後、津波などの二次災害から身を守るために必要なことや、津波のメカニズムを映像で学べるコーナーがありました。

津波は水深が深くなるほど速度が速くなり、陸に近づいても新幹線なみの速さで襲ってくるため、海岸で津波が見えてからでは逃げ切れません。そのため、地震が発生したら津波に備えてすぐに高台などを目指して避難する必要があることの説明がありました。

津波発生時に避難を誘導する際、最初に「高いところに避難する」とグローバルボディランゲージで伝えることが大切と感じました。

④視界にないものを指差して示す

津波に備えて高台にある建物の中に移動すると外が見えない場合があり、どこに海があるかわかりにくい状況になることに気づかされました。

「水」や「海」のボディランゲージと「津波」を組み合わせる具体的に伝えてから、海の方を指差してどこからやってくるのかわかるようにしました。

火事の際は最初、建物の中にいる状態から「階段を下りて避難しましょう」を伝えようとする長く感じてしまうことがありました。また、階段だけではなくエレベーターやはしごなど避難する手段は異なるため、指差しのほうが幅広く使えるという議論もありました。

⑤より具体的に伝える工夫

筑波技術大学でのワークショップでは、グローバルボディランゲージ案の「火事」が手話の「森」と誤解するとコメントがあり、手話の「森」と誤解させないように手の向きを変えました。

さらに「そなエリア東京」での検証時では、火事発生の放送を受けて火事を迂回して避難する内容になっていたため、「火事」を連想した「暑い」を組み合わせる「今暑い、火事」の表現が出ました。

⑥評価方法について

「そなエリア東京」での検証時に参加した聴者から、聴覚障害者の話す日本手話はグローバルボディランゲージと似ているところがあるので、それと比較するようなことをしてみてもどうか、というコメントがありました。

国際手話もあるので、今後は日本手話と国際手話の表現を確認してグローバルボディランゲージと比較できるような評価方法も検討したいと考えました。

グローバルボディランゲージの精度をより高めるために

今回、擬似体験や検証を通してグローバルボディランゲージ案にわかりにくさを感じ、その場で見直しながら検討を深められました。

また、ジオラマを背景に撮影することで評価用の動画に災害の情報を付加することができ、検討時には気づかなかったようなことも多く明らかになりました。

今後の予定として、今回撮影した動画を使って子どもから高齢者まで、様々な国籍を持った方々に評価していただきます。

また、日本手話や国際手話との比較もしながら検討を重ねていきます。

そして今年 12 月に開催予定の「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」までに、グローバルボディランゲージの精度をより高めていきたいと思えます。

その結果、グローバルボディランゲージを使うことによって、「避難する際、これだけ理解できれば十分」が達成できることを目標に考えています。

今回、ご協力いただいた東京臨海広域防災公園の管理センター様に改めて御礼を申し上げます。(了)



熱心に見学する参加者

手話用語 SWG メンバー募集中！

手話用語 SWG は、一緒に活動できるメンバーを募集しています。ご関心のある方は IAUD 事務局までご連絡ください。

日本の最先端の商品開発事例を紹介

ノルウェー・オスロ Innovation for All 2016 参加報告

5 月 11 日(水)と 12 日(木)の 2 日間、ノルウェーの首都オスロにある国立デザイン&建築センターにおいて、同センター主催の国際会議 Innovation for All 2016 が開催され、川原啓嗣専務理事が招待講演者として参加しました。

川原専務理事は IAUD の活動や日本の最先端の商品開発事例を報告したほか、今年 12 月に開催する「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」の告知も行いました。

今号の Newsletter では、Innovation for All 2016 の様子を川原専務理事が報告します。



Innovation for All 2016 会場の様子

IAUD の活動内容を紹介

国立デザイン&建築センターCEO の Trude Gornæs Ugelstad 氏の開会の挨拶の後、まずは「子供と平等省」の Solveig Horne 大臣が朝一番にオープニングの基調講演を行ないました。

Design for All や Inclusive Design の言葉が主流のノルウェーで、何度も Universal Design という言葉を用いていたのがとても印象的でした。

私(川原専務理事)の講演は、「Innovation for All from Japanese Perspective」の演題で行ないました。

初めに IAUD の活動内容として、IAUD アワード 2015 を紹介しました。

その中でも、住宅設備部門とプロダクトデザイン部門で金賞を受賞したパナソニック(株)の「おきらく手すり」「日本の暮らしに合わせた統一コンセプトの家電シリーズ『J コンセプト』」を紹介しました。

続いて、「ロボットと暮らす」として日本の最先端のロボット開発事例を紹介しました。

NEC が研究開発している子供をケアをするロボット「PaPeRo(パペロ)」や、国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)が開発し、ギネスブックから世界一の癒しロボットとして認定されたアザラシ型ロボット「パロ」、(株)デアゴスティーニ・ジャパンのコミュニケーションを可能にしたロボット「ロビ」等を紹介したところ、予想以上に好評でした。

また、移動空間プロジェクトが制作した IAUD プロモーションムービーも紹介しました。

最後に、今年 12 月に開催予定の「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」の告知と参加への呼びかけも行いました。



講演する川原専務理事



会場の国立デザイン&建築センター

各招待講演者からも有意義な講演が

他の招待講演者による講演もなかなか興味深いものがありました。特に、ノルウェー人の Johan Brand 氏は、世界中で急成長している教育用ウェブサイト「Kahoot!」を紹介し、人間中心デザインをベースとした開発戦略を説明しました。

このゲームベースのランニングツール「Kahoot!」の実演は、会場を巻き込む盛り上がりを見せ、私も帰国後、e-ラーニング、アクティブラーニングの模範的事例として教授を務める名古屋学芸大学授業で紹介しました。

他にも、Innovate UK の Jackie Marshall-Cyrus 氏の講演では、自立した生活のための技術革新について、また我々の考え方をアクティブ・エイジング(社会参加を続けながら年を重ねていくこと)へ転換するべきだと提唱しました。

Policy Lab 及び英国政府内閣事務所の Andrea Siodmok 氏は、人間中心デザインとインクルーシヴデザインのメソッドが未来政策を実践する際にいかに重要か、また英国での公共部門に役立っている現状について説明しました。

さらに、英国王立芸術大学院の Jeremy Myerson 氏をコーディネーターに、招待講演者と参加者でパネルディスカッションも行われました。

また、元国務長官で保健・ケアサービス省大臣の Astrid Nøklebye Heiberg 氏の講演「An

active and independent lifestyle – key contributions from technology and social innovations」や、同省プロジェクトマネージャーの Aina Strand 氏は、高齢者に優しい社会のためのノルウェー政府戦略「More years – more opportunities」を紹介しました。

他にも、英国王立芸術大学院の Jeremy Myerson 氏と Rama Gheerawo 氏らによるワークショップが好評でした。

最後に、Jeremy Myerson 氏のサマリーで閉会し、すべてのプログラムが終了しました。

この Innovation for All 2016 は、今年 12 月開催予定の「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」にも大いに参考となるものがありました。(了)

※「Innovation for All 2016」の詳細は、ノルウェー国立デザイン & 建築センターの公式サイトをご参照ください。

<http://doga.no/en/news/relive-innovation-for-all-2016>



オリンピック・パラリンピックのヴォランティアにも役立つ 第 7 回 UD 検定・中級 及び第 13 回 UD 検定・初級実施のご案内

UD 検定・中級検定試験 事前講習会

日時: 8 月 22 日(月) 9:30~17:10

会場: コクヨ株式会社 東京品川オフィス(東京・品川)

講師: 古瀬 敏氏(静岡文化芸術大学名誉教授)

和田 紀彦氏(IAUD 検定委員)

UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、UD」の検定ポイント解説を中心に、UD に関するさまざまな知識や情報を講習します。



UD 検定・初級 講習会の様子
(東京・浜松町)

第 7 回 UD 検定・中級 検定試験

日時: 9 月 3 日(土) 9:30~11:30

会場: 芝浦工業大学 芝浦キャンパス(東京・芝浦)

試験方式: 2 時間 140 問のペーパーテスト。公式テキストブックに準拠して出題します。

合格後は「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

第 7 回 UD 検定・中級検定試験と事前講習会の詳細は下記のリンクを御参照ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1607/12-120000.php>

第 13 回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験

日時: 9 月 3 日(土) 9:00~12:00

会場: 芝浦工業大学 芝浦キャンパス(東京・芝浦)

試験方式: 1 時間 50 問のマークシート方式ペーパーテスト。

合格後は「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

詳細は下記のリンクを御参照ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1607/12-130000.php>

UD を生活者と共に考え、デザインする

「第 11 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」参加者募集のご案内

ワークショップ委員会は9月1日(木)から3日(土)の3日間、芝浦工業大学(東京・芝浦)にて、「第 11 回 48 時間デザインマラソン ワークショップ in 東京」を実施します。

今回のテーマは「街とみんなのコミュニケーションをデザインする」。2020年のオリンピック・パラリンピックを見据えた生活に密着した街の暮らしをデザインし、最終日にはプレゼンテーションを行います。

現在、参加者を募集しております。詳細は下記のリンクをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1607/05-180000.php>



2015年の48時間デザインマラソン
プレゼンテーションの様子



IAUD
AWARD

一人でも多くの方が快適で暮らしやすいUD社会の実現を推進

「IAUD アワード 2016」募集中のご案内

IAUDは、UD社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体や個人を表彰する「IAUD アワード 2016」を実施いたします。

今回もUDにおいて一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対しては「IAUD アワード」が授与され、「IAUD アワード」マークをUDの普及啓発のために使用できます。

また、今年12月に開催予定の「第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」内で表彰式及びプレゼンテーションを実施します。

第1次審査の応募締め切りは8月16日(火)です。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD アワード 2016」詳細は下記のリンクをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1604/22-120000.php>



IAUD アワード 2015 表彰式の様子
(愛知・名古屋学芸大学)



テーマは「UD による共有価値の創造」
「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催のご案内

IAUD は、「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」を 12 月 9 日(金)から 11 日(日)までの 3 日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)において開催します。

今回の会議テーマ「ユニヴァーサルデザインによる共有価値の創造」のもと、国内外の参加者の活発な意見交換と相互交流を通してより質の高い UD 社会の実現をめざします。

どうぞ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細は下記のリンクをご覧ください。

<http://www.ud2016.net/index.jp.html>



第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京
会場の様子(東京・お台場)



8 月の予定

8 月 4 日現在

月	火	水	木	金	土	日
1	2 15:00~ 情報交流センター @IAUD サロン	3	4 15:30~ メディアの UDPJ @CUDO	5	6	7
8 11:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	9	10 10:00 ワークスタイル PJ @IAUD サロン	11 山の日	12 事務局・サロン 夏期休暇	13	14
15 事務局・サロン 夏期休暇	16 IAUD アワード 2016 第 1 次審査 応募締切	17	18	19	20	21
22 9:30~ UD 検定中級 講習会@コクヨ 品川オフィス 15:00~ 住空間 PJ House Vision 見 学会	23	24 14:00~ WS 委員会 @IAUD サロン	25	26 10:00~ 標準化研究 WG @トヨタ自動車 名古屋オフィス	27	28
29	30 15:00~ 運営委員会 @IAUD サロン	31 13:00~ 余暇の UDPJ @IAUD サロン				

次号は 9 月上旬発行予定 特集:第 1 回インクルーシヴデザイン国際会議参加報告ほか

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : info@iaud.net